

# どうひょう しる きゅうちめい 道標に記されている旧地名の由緒(いわれ)

「わがまち茨木 地名編」(茨木市教育委員会)より抜粋

## 道標1 しろ ちょう 城/町

いばらきしょうしゅなかがわきよひてこう ほしよ ばいりんじ い  
茨木城主中川清秀公の墓所である梅林寺のまわり。“しろんちょ”という人もいる。

## 道標2 とのまち 殿町

ばいりんじ ほくへん いばらきしょうがっこう むく せいほう いばらきかわつづみ ひろ とち とのまち いばらきしょう に まる  
梅林寺の北辺から茨木小学校を含めて西方へ茨木川堤までの広い土地。殿町には、茨木城の二の丸があったとされ、この辺り一帯が武士の居住地であったろうと思われる。

## 道標3 ざいもくちょう 材木町

げんざい ほんまち いばらきしょうがっこう りんせつ どうなんぶ ひろ しょうてんがい ざいもくちょう ざいもく ちゅうしん みせ のき  
現在の本町で、茨木小学校に隣接して、その東南部に広がる商店街。材木町は、材木を中心とした店が軒を連ねていたようで、茨木の人達だけでなく、近郊からも品物を買いにやってきた。

## 道標4 ひがし ばくろうちょう 東馬引口町

いばらきしょうがっこうひがしもん ひがし とお みち りょうがわ ばくろうちょう なか ひがしばくろうちょう にしばくろうちょう わ  
茨木小学校東門から東に通る道の両側が馬引口町で、中ほどで東馬引口町と西馬引口町に分かれる。ぎゅうば とち あつか ひとたち おお す うかが ばくろうちょう か  
牛馬と共にそれを扱う人達も多く住んでいたことが伺われる。「博労町」とも書く。

## 道標5 きたいちばちょう 北市場町

いばらき しょうかまち はいじょうご ざいごうちょう はんえい あきな こうつう ちゅうしん ち きたと ちょう ひがしと  
茨木は城下町として、廃城後は在郷町として繁栄し、商いや交通の中心地であった。北外ノ町は、東外ノ町、西外ノ町とともに、交通・運輸のターミナルとして活況を呈していたと思われる。

## 道標6 さすけやしき 佐助屋敷

てんしょう ねんころ ねん きゅういばらきがわさがん そ たんばばし とお きた みるた さすけ みるた おりべのかみしげなり す  
天正8年頃(1580年)旧茨木川左岸に沿って丹波橋の通りから北に古田佐介(古田織部正重然)が住んでいたため佐介(助)屋敷とか佐介垣内と言う。彼は武士でありながら茶道を好み、千利休七哲の一人と呼ばれ、武家好みの大名茶の開祖となった。織部焼の茶器の考案や、織部灯笼なども有名。

## 道標8 しば やちょう 柴屋町

げんざい もまち いばらきじんじや どうほう いばらきべついん ほくたん しょうてんがい なか しば やちょう こめ やちょう しば ちゅうしん  
現在の元町で、茨木神社から東方へ茨木別院の北端までの商店街。中でも柴屋町や米屋町は柴などを中心にして油屋・小間物屋・かじ屋・酒屋などが軒を並べていたと思われる。

## 道標9 みなみしみずちょう 南清水町

いばらきこうこう 100m ほど きた しみず わ た めいめい  
茨木高校から100mほど北にあり、清水が湧き出したことから銘名された。

## 道標10 てらまち 寺町

いばらきこうこう きた きゅういばらきがわ さがんあた げんざい ひと てら ばいりんじ じてん あんようじ しんごんしゅう  
茨木高校の北、旧茨木川の左岸辺り。現在は一つの寺もないが、梅林寺の寺伝によると、安養寺という真言宗の寺が建立されており、大永元年(1521年)に眠譽上人が浄土宗の寺として再興させたので、寺町と言うようになった。梅林寺は永禄年間(1558~1569年)に茨木神社の北側に寺を移したが、慶安三年(1650年)夏に茨木川の洪水で寺は流され、その後現在の地に新しく建立された。